

中原圭介&岡村友哉
が教える!



お金を10倍に増やす
株の見つけ方

中原圭介×岡村友哉

■はじめに

この本を手にとっていただき、ありがとうございます。

あなたは、どんな動機で、この本を手にとったのでしょうか？

「株式投資で短期間に資産を増やしたい」

「テンバガー（10倍株）を取ってみたい」

「IPO（新規公開株）で今後有望な銘柄を知りたい」

動機は色々だと思います。

いきなりあなたの出鼻をくじいてしまうかもしれませんが、まず断っておきたいのは、「世の中、そんなに面白い話はないよ」ということです。

投資にとって、リスクは付きものです。

例えば、最近では「短期間で億り人になれる」という類の謳い文句が散見されますが、その裏に潜むリスクについては、あまり意識されることがありません。のちほど詳しく説明しますが、「短期間で億り人になれる」ということは、失敗すれば、「短期間で資金がゼロになる」可能性も秘めているということです。

リスクコントロールを考えずに、リターンばかりを追い求める人は、いつか大ケガをして、株式市場からの退場を余儀なくされる可能性が高いと思います。本文（詳しくは170ページ）でも触れますが、私自身、2006年のライブドアショック時に資産を半減させた経験があるので、そのあたりが身に染みてよく分かるのです。

個人投資家が資産を増やすうえで、IPO銘柄は非常に魅力的です。上場直後から派手な値動きをするので、うまくいけば、短期間で資産を大きく増やせるメリットがあります。

ですが、私自身、IPO 銘柄の売買はやりません。

なぜなら、上場直後の IPO 銘柄は、**情報があまりにも少なすぎる**からです。

情報が少なすぎて、分からないことだらけ……。何も分からない中で資金を投入するのは、私に言わせれば、投資ではなく、投機です。

しかし、一方で、個人投資家が資産を増やすうえで、IPO 銘柄が非常に魅力的であることは、よく理解しています。

特に上場直後は情報が少なすぎるゆえ、**上にも下にもミスプライスを付けている IPO 銘柄**が数多くあります。

IPO 銘柄は、**自分でよく調べて、熟知したうえで投資をすれば、リスクコントロールをしつつ、短期間で大きなリターンを得ることができる可能性を秘めている**ことは間違いありません。

そこで、この本では「**IPO 銘柄の達人**」である岡村友哉さんと対談を行いました。

あくまでも私が知るかぎりですが、岡村さんは「**IPO 銘柄に日本一詳しい**」と言って、差し支えありません。

なぜ、岡村さんは IPO 銘柄に詳しいのか？

その理由は、岡村さんが経済番組のキャスター、そして株式のコメンテーターとして、**数多くの取材を行っている点**が挙げられますが、何よりも大きいのは、岡村さんが**無類の株好きである点**です。

岡村さんは長い間、株式投資、特に IPO 銘柄に興味を持ち、知見を重ねてきました。岡村さんと話をするたびに、その豊富な知識に驚かされることもしばしばです。

今回の対談の主題は「**株式投資でリスクコントロールをしつつ、最速で資産を 10 倍に増やす方法**」についてです。

このテーマを中心にして「**IPO 銘柄の魅力**」や「**テンバガーの可能性**」を掘り下げていくのと同時に、「**大化けする可能性がある銘柄の共**

「通点」について、読者のあなたに、様々なヒントを提供できればと思っています。

今回の対談は、3日間に分けて行いました。

そのため、この本も3章立ての構成になっています。

1日目のテーマは「IPO 銘柄でテンバガーは可能か？」についてです。

「IPOの裏側」「短期テンバガー達成の3つの条件」「億り人になる人の共通点」「資産を10倍に増やすNISA活用法」などについて、岡村さんに詳しくお話を伺いました。

2日目のテーマは「お金を10倍に増やす株のを見つけ方」についてです。

「大化けする銘柄の共通点」や「長期保有できる銘柄の条件」は何か？様々な事例を挙げながら、深く掘り下げていきます。また「決算短信のポイント」「株式投資を成功させる仮説の立て方」「ツイッター活用法」「新聞の読み方」などについても、詳しく解説します。

3日目のテーマは「お金を10倍に増やす投資戦略」についてです。

「どんな相場でも負けない投資法」を主題として、「株価の天井や底を見極める方法」「ショック時の対処法」「投資技術をバージョンアップする方法」などについて、議論を交わしました。

本書では、初心者の方でも理解できるよう、できるかぎり丁寧な説明を心がけました。この本があなたの投資家生活に少しでもお役に立てるよう、切に願っております。



中原圭介

目次 Contents

はじめに	2
------------	---

1 日目

IPO銘柄でテンバガーは可能か？

～誰も教えてくれないIPOの裏側～

知られざる「IPO市場の変化」とは？	10
テンバガーはどのようにして生まれるのか？	14
短期テンバガー達成の「3つの条件」とは？	19
上昇するIPO銘柄は何が違うのか？	29
IRへの質問テクニック 「絶対に聞くべきこと」とは？	32
億り人になる人の共通点	35
デイトレードで資産を作ることは可能か？	40
資産を10倍に増やす「NISA活用法」	44
経済誌やアナリストのレーティングは 当てにならない！	51

お金を10倍に増やす株のを見つけ方

～「大化けする銘柄」の共通点とは？～

なぜ、オリエンタルランドは コロナ禍で買われたのか？	62
選ばれる銘柄が持つ「3つのポイント」	67
シナリオどおりに成長できない会社は 何がダメなのか？	72
決算短信「見るべきポイント」とは？	75
「優秀な学生が就職する会社」に注目する！	77
日本に数少ない 「オンリーワンの会社」に注目する！	81
「参入障壁が高い業界」に注目する！	86
「価格勝負ができる会社」に注目する！	90
長期保有できる銘柄の条件	94
一番の狙い目はスタンダード市場	96
株式投資に活かす「ツイッターの使い方」	106
株式投資に活かす「新聞の読み方」	110
投資のヒントはどこにある？	112
銘柄の知識を深めるために 「日々実践すべきこと」	116

日本で日本株に投資するメリット	119
株式投資を成功させる「仮説の立て方」	122
市場参加者の心理を読むための秘訣	126
株式投資で「やってはいけないこと」	129
今後有望なテーマは？	133

3 日目

お金を10倍に増やす投資戦略

～どんな相場でも負けない投資法～

株価の天井や底はどう見極める？	140
機関投資家の「持たざるリスク」とは？	143
一目均衡表やMACDは要らない！	148
上昇トレンド時の投資戦略	154
ボックストレンド時の投資戦略	156
下降トレンド時の投資戦略	159
相場で長生きする人が実践する 「ショック時の対処法」	163
ライブドアショックで資産が半減	170
下降トレンドの時こそ 「大化けする会社」が生まれる！	173
個人投資家が事前に危機を察知する方法	179

暴落時の買い時は 「日経平均のPBR」で見極める！	185
セリングクライマックスを見極める方法	190
急落した株 「買っていい時」「買ってはいけない時」	196
投資技術をバージョンアップする方法	198
投資の世界で人間が AIを凌ぐ結果を出すことは可能か？	202
おわりに	206

※本書で示した意見によって読者に生じた損害、および逸失利益について、著者、
発行者、発行所はいかなる責任も負いません。
投資の決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

- カバーデザイン・イラスト・マンガ／ハッチとナッチ
- 本文デザイン・DTP／白石知美・安田浩也（株式会社システムタンク）

1 日目



IPO銘柄で テンバガーは可能か？

～誰も教えてくれないIPOの裏側～

知られざる「IPO市場の変化」とは？



まずは近年の「**IPO市場の劣化**」とも取られかねない現状について、岡村さんにお話を伺いたいと思います。

東証は年間の上場目標を **100社** としていますが、その目標達成を優先するあまり、IPO企業の質が悪化し、いざ上場しても投資妙味が薄いのではないかとされています。

「**そもそも、大半のIPO銘柄は投資対象にならないのではないか**」という懸念がよく聞かれます。

そのあたりの現状について、詳しく教えていただけますか？



分かりました。まず断っておきたいのは、僕自身、東証の方針がIPOの劣化に繋がっているとは思っていないということです。

なぜ、東証が上場100社を目標としているのか？

その経緯をお話すると、2007年頃まで、年間のIPOは常に100社以上ありました。

ところが2008年のリーマンショックのあと、**市況が悪化**して、IPOの数が減少しました。

そうした中、2013年1月に日本証券取引所がIPOしました。

上場会社になったため、他の上場会社と同じように、外部に目

標を発信するようになりました。そこで「成長の3本柱」の1番目に掲げられたのが、上場100社という目標になります。上場企業として、目標を掲げるのは当然ですから、それ自体は問題ないと思います。



投資妙味という点ではどうでしょうか？



「グロース市場（旧マザーズ市場）には、中長期の投資対象として、微妙な銘柄が多い」と多くの投資家が感じていると思います。

現在の東証には、プライム市場、スタンダード市場、グロース市場の3つがあります。

スタンダード市場以上に上がろうと思ったら、直近1年間の経常利益が1億円以上ないといけません。

一方、グロースの市場には、経常利益1億円以上という金額的な制約がありません。つまり、利益が1億円に満たない段階のベンチャー企業が、グロース市場だったら、上場できる可能性があるわけです。

利益が1億円に満たない企業、特に赤字段階で先行投資をしているフェーズの企業というのは、かなりアリーステージです。

人を増やししながら、会社を成長させて、いっばしの利益を出す前の段階でも、ルール上、上場できてしまうということです。



そうすると、将来の成長に対する目利きが重要になってきますね。

2021年の段階では、「最近のIPOは上場ゴールが多く、投資対象になる銘柄を見つけるのが難しい」という話で、岡村さんと私は意見が一致していました。



そうですね。公開価格が高い IPO が多かったですから。
ただ、**2022 年に入ってからのグロース株バブルの崩壊で、状況が変わりつつあります。**

2021 年までは「多くの IPO 銘柄が投資対象としては危険かな」と思っていたのですが、その考えが徐々に変わってきました。
というのも、**赤字のベンチャーや利益が小さい会社などが、IPO しにくくなったんです。**その理由は、**機関投資家がそういう銘柄を嫌うようになったから**です。

上場前に機関投資家を回っても、「**その銘柄だと、この金額は払えません**」という話になってしまうので、公開価格に十分な値段が付かなくなりました。

ベンチャー企業にとって、**IPO は一生に 1 回きりのチャンス**です。もちろん、手前で投資をしていたベンチャーキャピタルにとっても、最善の出口（エグジット）になります。良い値段で上場できないなら、しない方がいい。
だから最近では、ある程度の利益を出せる段階になった会社が上場するようになりました。



状況が変わってきたということですね。



そうですね。以前は、初値が高く付いたあとの IPO 銘柄の 9 割ぐらいは、投資対象にならないと思っていました。
ですが最近では、**7 割ぐらいは「高いかな」と思うものの、3 割ぐらいは初値を付けたあとからも上がりそうな予感**がします。あくまでも私の予感ですが。
いずれにせよ、2022 年のグロース株バブルの崩壊で、IPO にも自浄作用が働いたように思います。



東証が年間 100 社を目指すところに、無理は生じないのでしょ

うか？



東証が IPO を増やそうとするのは、別に悪いことではないと思います。

でも、社数をこなそうとすると、どうしても定量的なスコアで判断せざるをえなくなる面はありますよね。



「定量的なスコアで判断する」というのは、具体的にどういうことでしょうか？



例えば「安定的に利益が何億円以上あれば、この市場」という形で、杓子定規で判断せざるをえないということです。

そうすると、利益を出しやすい企業、例えば E コマースをやっている会社などが上場しがちになります。

それ自体は悪いことではありませんが、そういう会社は、現時点で利益を出せてはいるものの、ビジネスモデルに新奇性がなかったり、そんなに成長性が高くなかったりします。



利益が出ていても、成長性があるとは限りませんからね。



実は、すごいベンチャーって、日本に多いんです。

すごいビジネスをやっているベンチャーが多いけれど、赤字だったりする。そうすると、すぐには IPO できなかつたりします。本当にすごいベンチャーが上場できない。

その一方で、微妙に稼げている、社員数 20 ～ 30 人程度のベンチャー企業が普通に上場しています。

会社の数はかなりあるけれども、その中に何年後かに大化けする可能性がありそうな、ポテンシャルを持っているような会社は少ない。

IPO が改善しているとはいえ、そういう傾向はあまり変わっていない気がします。

👉 テンバガーはどのようにして生まれるのか？



IPO の現状については、よく分かりました。

次に**テンバガー（10 倍株）**について伺いたいと思います。

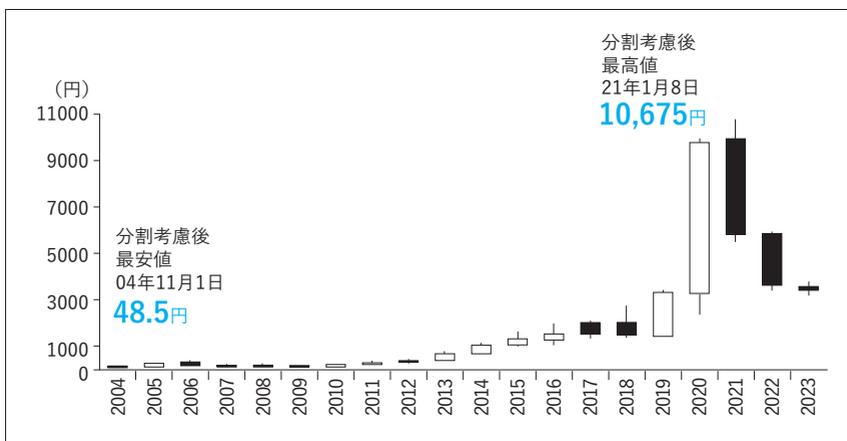
テンバガーの話になると、よく出てくるのは**エムスリー（2413）**ですね。

私が投資を始めた頃から、エムスリーはあって、当時はソネット・エムスリーでした。



エムスリーは、2004 年につけた最安値から、2021 年につけた高値までで**220 倍**になりました。

■ 図① エムスリー(2413) 年足 上場～2023年3月20日





そうすると、「**次のエムスリーはどこだ？**」という話になると思います。そのあたりはいかがでしょうか？



エムスリーに限りませんが、テンバガーはあくまでも結果としてそうなったというだけの話であって、事前に予測するのは、さすがに不可能です。

テンバガーのエピソードでは、**エムスリーや MonotaRO (3064)** などがよく語られますが、これらがテンバガーになったのは、**過去最高益、大幅な増収増益を何期も続けることができた**からです。

スター株はたいてい、決算のサプライズを積み重ねる過程で生まれます。



たしかに「**次の期も最高益になるか？**」と言われれば、それは誰にも分かりませんよね。



そのとおりです。だから、「**エムスリーのように最高益を取りながら、次にテンバガーする会社はどこか？**」と言われても、みんな思い浮かぶ会社がないんですよ。あくまでも、あとで振り返ってみて分かる話ですから。

テンバガーを生み出す力が株式市場にはあります。でも残念ながら、それを予測する力は人間にはありません。



私もそう思います。テンバガーというのは、**あくまでも結果論**であって、そこを狙っていくのは、基本的にナンセンスです。



時間をかけられるということであれば、しっかり業績を伸ばせそうな銘柄を長く持つのは、悪いことではありません。

例えば、**EPS (1株当たり純利益) が10年で10倍になった**

ら、株価が10倍になることも、正当化しようと思えばできますから。

でも、先ほどもお話ししたように、テンバガーはそもそも狙えるものではないし、あえて狙う必要もないと思います。

例えば、2022年は久しぶりのベアマーケット（相場の下落が続いている市場のこと）でしたが、そんな中、2022年の安値から高値までの最大上昇率で、1年間で2倍以上になった株が、日本の中に270銘柄以上ありました。

同様に、5倍以上になったのは9銘柄。10倍になったのは2銘柄。全て中小型株です。



無理にテンバガーを狙うのではなく、そうした銘柄にコツコツ投資をした方が良いということですね。



そう思います。日本の中小型株は、ほとんどが国内完結型のビジネスで、多国籍企業はほとんどありません。

そうなると外部環境、例えば、欧米の景気減速や金融政策の変更は、基本的にその企業のファンダメンタルズ（国や企業などの経済状態を示す指標のこと）には関係ないんですよ。

そういう銘柄にお金が行かうと、マーケットキャップ（株式時価総額のこと）が小さい銘柄が多いので、全体相場が弱い時期にも株価が上がることは多いです。

中小型株の魅力は、ベアマーケットの中でも2倍、3倍といった銘柄が生まれるところにあります。



大型株の場合、ベアマーケットの中で2倍になったり、指数の値動きに逆行して2倍になったりすることは、ほとんどありませんからね。



そのとおりです。中小型株の中には、日経平均と相関のないものがたくさんあります。

例えば「**ベータ値が 1**」ということは、「**日経平均と同じような動き方をする**」という意味ですが、それが **0.1** とか**マイナス**の銘柄は**けっこう多くある**んです。

そういう銘柄を、「日本株全体がどうなるか」という予測とは切り離して考え、投資をしていくことが、資産を増やすためには**すごく大事**だと思います。



メディアはテンバガーを囃し立てますが、私の見立てでは、**株価の上限は 5 ~ 7 倍がいいところで、たいていは 10 倍になる前に終わってしまいます**。

でも、10 倍にこだわる投資家は**けっこう多い**です。

5 倍ぐらいになったら、「業績から見たら割高なんだから、早く売ればいいのに」と思うんだけど、「**10 倍になるまで売りません**」という意固地な投資家が**かなり多い**です。

結果、「**せっかく 5 倍までいったのに、2 倍まで戻ってしまった**」というパターンはよくある話です。

テンバガーを狙って、その銘柄をずっと持っている方が、投資効率が悪くなる。こういうケースは「**投資あるある**」だと思います。



たしかに、よくあるパターンですね。



株価が何倍にもなる機会に出会うためには、基本的に流動性が低い時に買わなければなりません。これは**非常に重要な視点**です。



そうですね。流動性が低いということは、みんなが見ていな

い、つまり**人気がない**ということです。



人気がなく、誰も見てない時に買わないと、「株価が何倍」という確率は低いわけです。



流動性がなくて、人気がない。そうした中から大化けする株が出てきますが、**人気がないまま終わってしまう銘柄の方が圧倒的に多い**。だから、難しいんですよ。



テンバガーって、結局は運なんですよ。実力ではありません。まかり間違ってもテンバガーで儲けたりしたら、おそらく次からの投資は、もううまくいかないと思います。**パチンコと同じ**ですよ。ビギナーズラックで大勝ちして、あとはダメになってしまうパターンです。



大事なのは、あくまでも資産10倍という目標を達成することであって、テンバガーを達成することではありませんからね。細かい税金の計算は省きますが、100万円を5倍にすれば、500万になります。そうすれば、あと1回、2倍を取れば、それで10倍になります。

テンバガーを切り刻んで考えましょう。2倍を4回でもいい。それぐらいのスタンスの方が、現実的ですよね。



そう思います。例えば、**3年後の売上が2倍になる銘柄を探そうと思ったら、そんなにハードルは高くありません**。

一方、**売上が10倍になる銘柄を探そうとしても、そんなものは、まず見つからない**と思います。



コロナ禍は、大事な教訓を与えてくれたように思います。

それは、みんなが「もうダメだ」と思って、距離を置いている時に仕込むことの大切さです。

良い例は、旅行関連サイトで中小型株のアドベンチャー（6030）やオーブドア（3926）ですね。

ピュアな成長で売上2倍となると、なかなか難しい側面もあります。

でもコロナ禍のような特殊な状況下で、いったん需要がなくなった状態からの回復となれば、売上2倍は十分にありえますし、実際に起きました。

アドベンチャーの株価は2年強で約7倍。オーブドアも1年半で約4倍になりました。

あとから振り返ってみたら、「なんでこんな簡単なことに気づかなかっただろう」という話なんですけど、こうした教訓を次に活かすことが大事ですね。

👉 短期テンバガー達成の「3つの条件」とは？



テンバガーについて、もう少し掘り下げていきたいと思います。
2022年は2銘柄が短期テンバガーを達成しました。



2022年の1年間でテンバガーになった銘柄は、**マツモト（7901）とバンク・オブ・イノベーション（4393）**の2銘柄です。

前年の2021年も2銘柄で、**グローバルウェイ（3936）と東京機械製作所（6335）**でした。

これが多いか少ないかと言われると、僕の中では「**すごい多いな**」というのが、正直な印象です。1年の間に10倍になる株が、上場会社の中に2つもあるわけですから。



マツモト（7901）とバンク・オブ・イノベーション（4393）は、どうして株価が上がったのでしょうか？



マツモトに関しては、いわゆる**仕手株**（特定の投資家によって株価が意図的に操作されている銘柄のこと）になったところなんです。

SNS 上で影響力を持つインフルエンサーに、驚くほど多くの人が乗っかって、信じられないほど株価が上がりました。

2022 年の爆上げ前の時価総額が 7 億円程度という超小型株だったからなせたことではあります。



そうなんです。バンク・オブ・イノベーションはいかがでしょうか？



こちらは、ものすごいキレイな材料でした。

「**メメントモリ**」という魔女のゲームが大ヒットして、月次課金高で初月から 35 億円の売上が立ったんです。

この会社の前の期の売上高は 24 億円でした。

つまり**年間の売上を大幅に上回る額を、たった 1 カ月で稼いでしまった**ということです。

だから**株価が 10 倍**になりました。キレイな話ですよ。



「**ヒット商品が出た**」とか、「**売上が立った**」という理由で株価が上がるのは、理想的ですね。



理想的なんです、こればかりは予想ができませんから、難しいです。



短期テンバガー銘柄に、何か共通点があれば教えてください。



マツモトやバンク・オブ・イノベーションのように、**短期間でテンバガーを達成する株の条件**を考えた時に、主に次の3つが挙げられます。

これは **2022 年の「瞬間最大上昇率トップ5」** の銘柄の共通点に基づいています。

■短期テンバガー達成の「3つの条件」

- ①時価総額が35億円未満 = 小型(軽い)
- ②25日移動平均売買代金7000万円未満 = 流動性が低い
- ③信用買い残が2億円未満 = 人気がない



1980年代のバブル期、女性が「**結婚したい男性の条件**」として「**3高**」を掲げた時代がありました。

3高とは、**高学歴、高収入、高身長**のことです。これがモテる男の条件でした。

短期でテンバガーを達成するのは、まさにその逆で、①～③の**モテない3要素**、つまり「**3低**」を**パーフェクトに兼ね備えた会社**になります。

実は、こうした会社は山のようにあります。

こうした条件を満たす会社を**プライム市場、スタンダード市場、グロース市場に分けて、時価総額の小さい順に並べたのが、次のページの表**になります。

次のページへ →